

令和7年

第1回

3/2

(日)

午後2時～

講演「縄文から弥生へ」
— 弥生のはじまりと糸島 —
宮地 聡一郎

九州歴史資料館 埋蔵文化財調査室
大宰府調査班長

講演「支石墓は語る」
— 朝鮮半島との交流と社会 —
端野 晋平

徳島大学埋蔵文化財調査室 准教授

令和7年

第2回

3/15

(土)

午後1時～

講演「弥生時代の人々」

— 顔面部形質と筋骨格ストレスマーカー
から再構築する新町遺跡出土人骨 —

米元 史織

九州大学総合研究博物館 准教授

講演「復顔のすすめ」

— 新町支石墓群9号墓人骨の復顔について —

川久保 善智

佐賀大学医学部医学科解剖学・人類学分野 助教

トークセッション「人骨と復顔」

— 形質人類学と考古学の交差点 —

コーディネーター

舟橋 京子 九州大学比較社会文化研究院 准教授

パネリスト

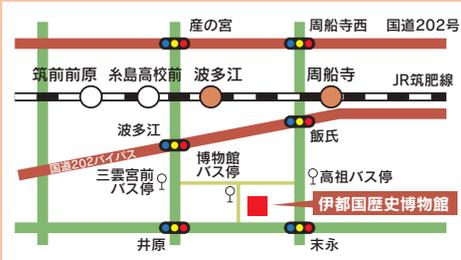
川久保 善智

米元 史織

会場

伊都国歴史博物館

4階 研修室 (糸島市井原916)



お問い合わせ 伊都国歴史博物館
お申し込み ☎ 092-322-7083

令和7年2月11日(火・祝)より
窓口または電話による受付開始

参加無料 (事前に予約が必要です)
参加人数 各回とも100名

よみがえる
弥生人

— 支石墓が語る
弥生のはじまり —



よみがえる弥生人

— 支石墓が語る弥生のはじまり —

最新の研究成果が示す糸島の弥生時代のはじまりとは！

弥生時代の始まりに渡来した支石墓。糸島には多くの支石墓がありますが、その中でも国指定史跡である「志登支石墓群」、「新町支石墓群」は考古学史的にも大変重要な遺跡です。今回のフォーラムでは2日に分け、支石墓やそこから出土した人骨に精通する研究者をお招きし、弥生時代のはじまりや、形質人類学的見地から当時の糸島に住んでいた弥生人について迫っていきます。また、今回は新町支石墓群9号墓から出土した人骨から、当時の顔を復元した像を公開します。

3/2 (日)

14:05～ 講演 1

「縄文から弥生へ — 弥生のはじまりと糸島 —

宮地 聡一郎

(九州歴史資料館埋蔵文化財調査室大宰府調査班長)

立命館大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了後、(財)大阪府文化財調査研究センター専門調査員を経て福岡県教育庁に入庁。東日本大震災復興事業に係る派遣職員として埋蔵文化財調査に従事。2022年には博士(文学・立命館大学)取得。現在、九州歴史資料館大宰府調査班長として、大宰府史跡の調査研究に携わる。主な著作に『西日本縄文時代晩期の土器形式圏と遺跡群』『考古学講義』(共著)など

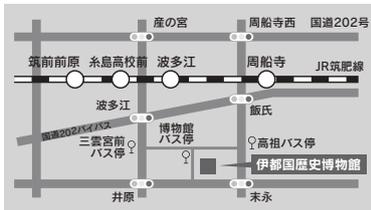
15:15～ 講演 2

「支石墓は語る — 朝鮮半島との交流と社会 —

端野 晋平

(徳島大学埋蔵文化財調査室 准教授)

九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程単位取得退学後、日本学術振興会特別研究員(PD)、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター助教などを経て、現在、徳島大学埋蔵文化財調査室准教授。支石墓のほか、稲作開始期の弥生文化の形成過程などについて研究を行っている。主な著作に『初期稲作文化と渡来人—そのルーツを探る—』など。



■バス

JR筑肥線周船寺駅からコミュニティバス川原線雷山の森行き、伊都国歴史博物館バス停下車徒歩2分。または、「波多江駅西」バス停(JR波多江駅徒歩約3分)からコミュニティバス井原山線井原山行き、伊都国歴史博物館下車。

■車

【福岡市方面から】

九州自動車道福岡インターまたは太宰府インターから福岡都市高速道路經由西九州自動車道今宿インターを降り、国道202号飯氏交差点を左折、約8分。

【唐津市方面から】国道202号波多江交差点を右折、約8分。



お問い合わせ
伊都国歴史博物館
TEL 092-322-7083

3/15 (土)

13:05～ 講演 1

「弥生時代の人々

— 顔面部形質と筋骨格ストレスマーカーから再構築する新町遺跡出土人骨 —

米元 史織

(九州大学総合研究博物館 准教授)

九州大学大学院比較社会文化学府で博士号を取得後、現在は同大学総合研究博物館で准教授を務める。主に骨形態の変異から過去の人々の生業様式・生活様式を明らかにすることをテーマとしている。近年では頭蓋骨の3Dデータによる解析や弥生時代の形質による地域性の再検討を行っている。主な著作に『身体と生存の文化生態』(共著)「骨から探る日本人の起源—九州大学総合研究博物館の古人骨—」(『西日本文化』)

14:15～ 講演 2

「復顔のすずめ — 新町支石墓群9号墓出土人骨の復顔について —

川久保 善智

(佐賀大学医学部医学科解剖学・人類学分野 助教)

東北大学医学部博士課程取得後、鳥取大学の助手を経て現在、佐賀大学医学部医学科解剖学・人類学分野 助教を務める。頭蓋計測値や形態小変異の観察から日本列島住民の地域差、時代変化について研究を行う。また、吉野ヶ里遺跡をはじめとする全国の遺跡から出土した古人骨の復顔を多く手掛ける。

15:30～ トークセッション

「人骨と復顔—形質人類学と考古学の交差点—

コーディネーター

舟橋 京子

(九州大学比較社会文化研究院 准教授)

九州大学大学院比較社会文化研究院博士号取得後、現在は九州大学大学院比較社会文化研究院准教授を務める。東アジア先史社会における儀礼の変化と社会進化段階の関係、葬送行為・親族構造の分析とそれに基づく先史・古代社会の復元について研究を行う。主な著作として「抜歯風習と社会集団—列島先史社会を中心として—」「儀礼と親族関係」(『古墳時代の親族と地域社会』市民の考古学 18)

パネリスト

川久保 善智、米元 史織